

高専高学年における学校行事および学校生活に関する アンケートの実施結果

渡 辺 誠 一*

Survey Results on College Events and College Life in College of Technology of Higher Grades

WATANABE Seiichi

キーワード：高専高学年，学校行事，学校生活，キャリア教育，アンケート結果

1. ま え が き

高等専門学校（以下、高専と略記）は5年間一貫教育を柱として、さまざまな教育および研究活動が行われている。高専は中学校卒業生を受け入れているが、10代後半は人間形成のために大切な時期であり、高専における学生生活をいかに充実させるかが重要になってくると考えられる。

長野高専においては、学生の人間形成のために工嶺祭（文化祭）や特別研修¹⁾などの学校行事や特別活動、課外活動などを設定している。1～3年生においては特別活動の1つであるホームルーム活動が45分の時間で30週あるが²⁾、4～5年生についてはホームルーム活動の時間は設定されていないため、学校行事や課外活動、学年毎に実施する講演会などが主な人間形成の場となる。

本論文では、筆者がクラス担任を務めた電気電子工学科の平成24年度4年生および平成25年度5年生を対象とした学校行事および学科で独自に開催した行事の一部について紹介した後、学校行事および学校生活に関するアンケート結果について述べる。

2. 4年生における行事

2-1 学校行事

学校行事としては以下のような行事が行われた。

- (1) 交通安全講習会（5月9日（水））
- (2) 校内クラスマッチ（5月23日（水））
- (3) 工嶺祭（10月18日（木）～22日（月））
- (4) 企業・現場見学（11月7日（水）～9日（金））

* 電気電子工学科准教授

原稿受付 2015年5月20日



図1 校内クラスマッチの様子（平成24年5月23日）



図2 工嶺祭クラス展示の様子（平成24年10月21日）

(1)の交通安全講習会は学生支援委員会が実施している行事で、交通安全に関するDVDを視聴した後、長野中央警察署の警察官による講演を聴講した。

図1に(2)に挙げた校内クラスマッチの様子を、図2に(3)に挙げた工嶺祭クラス展示の様子を示した。

これらの2つの行事は毎年行われる行事で、本校にとって人間形成の大切な場である。クラスマッチや工嶺祭期間中に行われる「体育祭」においては、一致団結するためにクラスTシャツを作り、競技をするだけでなく応援にも力を入れている。学生は一致団結して活き活きと活動している様子が伺えた。

図3に(4)に挙げた企業・現場見学の様子を示した。2泊3日で米倉山太陽光発電所(山梨県甲府市)、東京エレクトロン山梨株式会社(山梨県韮崎市)、独立行政法人産業技術総合研究所サイエンス・スクエア臨海(東京都江東区)、リオン株式会社(東京都国分寺市)、一般財団法人電力中央研究所赤城試験センター(群馬県前橋市)の5箇所を視察した。



図3 企業・現場見学の様子
(平成24年11月7日、米倉山太陽光発電所)

2-2 正課に関連する行事

学科が中心となって、以下の行事が行われた。

- (1) 実務訓練報告会(12月19日(水))
- (2) 5年生卒業研究発表会(2月5日(火))

(1)の実務訓練報告会は、電気電子工学科においては実務訓練を平成18年度から選択必修化したため、実習後に実習を行った全学生が実習内容を発表する機会としている³⁾。この会では、夏季休業期間中に企業等で2週間実施した実習内容について5分程度で発表してもらった。報告会には3年生も聴講した。(2)の卒業研究発表会は、上級生の卒業研究の発表を聴講して、来年度卒業研究テーマの決定に活かす機会とした。



図4 キャリアセミナーの様子
(平成26年3月2日、集団模擬面接)

2-3 進路に関連する行事

学年会と学生支援委員会、または学科が中心となって以下の行事が行われた。

- (1) 進路講演会(12月14日(金))
- (2) キャリアセミナー・自己分析(12月15日(土)、32名参加)
- (3) 高専生のための合同企業説明会(1/12(土)、A社主催、23名申込)
- (4) 高専生のための業界研究セミナー(1月26日(土)、B社主催、7名申込)
- (5) キャリアセミナー・面接対策(3月2日(土))
- (6) 卒業生による講演会(3月5日(火))
- (7) 4年生と5年生との進路に関する座談会(3月5日(火))
- (8) 進路説明会(3月31日(日))

(1)の進路講演会は、近年の就職事情を就職情報企業の方に講演していただいた。

図4に(5)に挙げたキャリアセミナー・面接対策の様子を示した。(2)および(5)のキャリアセミナーは、

ICDS-NAGANOの協力を得て、キャリアコンサルタントによる自己分析および個人面接、集団面接、グループディスカッションの方法についてグループワークを交えて教授していただいた。

(3)および(4)の合同企業説明会は、人材支援事業および就職情報誌の発行を行う企業が主催する高専生を対象とした合同企業説明会で、主催者にバスを用意していただき参加した。(6)の卒業生による進路講演会は、卒業生1名による講演を聴講した後、学科長から進路状況の説明を受けた。(7)の4年生と5年生との進路に関する座談会は平成22年度から学科独自に実施しているもので⁴⁾、学生は上級生から希望する企業や進学先の情報や卒業研究の情報について熱心に聴いていた。(8)の進路説明会では、保護者を交えた3者面談を行い、第1希望を確定した。

2-4 その他の行事

その他の行事として学生相談講演会(3月4日(月)、35名参加)が行われた。学生相談講演会は学生相談

室が中心となって実施した行事で、5年生になると進路決定に向けての活動中や卒業研究を実施する場面で悩み事が出てくる可能性があることから、本校のカウンセラーからアドバイスをいただいた。

3. 5年生における行事

3-1 学校行事

学校行事としては以下のような行事があった。

- (1) 交通安全講習会(5月8日(水), 5月16日(木))
- (2) 校内クラスマッチ(5月15日(水))
- (3) 工嶺祭(10月17日(木)～21日(月))

(1)の交通安全講習会は例年通り行われている行事であるが、この年度については欠席者は別日に補講が設定されて同様の講習を受けた。(2)の校内クラスマッチは4年生の際と同じ内容で行われた。

図5に(3)に挙げた工嶺祭の企画として実施した模擬店「イカ焼き」の様子を示した。5年生になると模擬店の出店が可能となる。学生は調理方法や販売方法について検討を重ね、試食会を経て工嶺祭に臨んだ。5年生になると工嶺祭役員になる学生が多いため、調理および販売のローテーションを組むのに苦労している様子であったが、目標達成のため団結している様子であった。



図5 工嶺祭模擬店「イカ焼き」の様子
(平成25年10月19日)

3-2 正課に関連する行事

学科が中心となって、以下の行事が行われた。

- (1) 創造工学実験アイデアコンテスト(9月26日(木))
- (2) 5年生卒業研究発表会(2月4日(火))

図6に(1)に挙げた創造工学実験アイデアコンテストの様子を示した。創造工学実験は平成18年度から4年後期および5年前期の電気電子工学実験の中で実施している^{5)~7)}。平成25年度は1チーム2~3名で構成して、14チームでマイコンを用いた作品の製作を行い、電気電子工学科棟の2つの実験室を会場としてA1版のポスタを用いて発表を行った。

(2)の卒業研究発表会は、100番教室を会場として、5年生に1年間の研究成果を発表してもらった。この会では計38件の発表が行われたが、この発表の一部について4年生および3年生も聴講した。

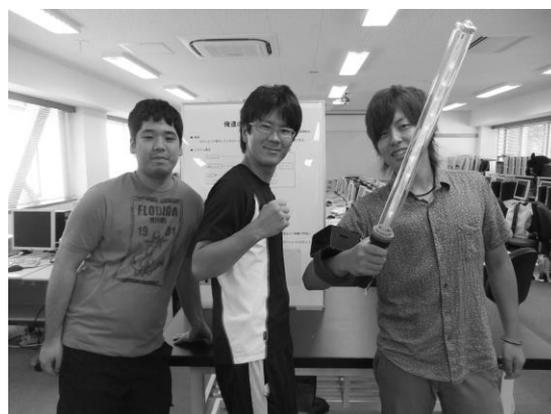


図6 創造工学実験アイデアコンテストの様子
(平成25年9月26日)

3-3 進路に関連する行事

学年会および学生支援委員会、または学科や同窓会が中心となって、以下の行事が行われた。

- (1) 創立50周年記念フォーラム(10月26日(土)), キャリアセミナーおよび企業説明会)
- (2) 1年生と5年生との交流会(11月7日(木))

- (3) 4年生と5年生と進路に関する座談会(1月14日(火))

- (4) 新社会人ワーキングセミナー(3月5日(火))

(1)の創立50周年記念フォーラムは同窓会が中心となって企画したもので、2-3節で述べたキャリアセミナーと企業説明会が行われた。進路が決まった後の行事であり、進学予定者にとっては進学後の進路に活かしてほしいと参加を促したが、工嶺祭終了後ということもあり、本クラスからの参加者は多くなかった。

図7に(2)に挙げた1年生と5年生との交流会の様子を示した。1年生と5年生の学科交流企画として、5年生が創造工学実験で製作した作品の紹介と、進路に関するアドバイスを行った。

図8に(3)に挙げた4年生と5年生との進路に関する座談会の様子を示した。平成24年度は3月に開催したが、アンケート結果より早期に実施したほうが良いとの意見が多かったことから1月に開催した。就職ブースと進学ブースの2会場に別れて、5年生

が進路決定の際に経験したことを後輩である4年生に伝えた。

(4)の新社会人ワーキングセミナーは、長野県北信労政事務所から講師を招いて、労働基準法を中心とした労働関係の基礎知識について習得するための講演をしていただいた。

3-4 その他の行事

その他の行事として、以下の様な行事があった。

- (1) 一日体験入学 (7月20日(土))
- (2) 年金説明会 (11月8日(金))

図9に(1)に挙げた一日体験入学の様子を示した。一日体験入学では学科で実施する体験授業の補助学生として22名参加があり、中学生に対して実験を行う際の教員の補助や施設案内をしてもらった。

(2)の年金説明会は、学年会と学生支援委員会中心となって実施した行事で、日本年金機構の職員による年金制度の説明があった。

4. 活動実施後のアンケート結果

クラスの学生全員に対して、学校行事などの一部について実施内容に関する記名式アンケートを実施した。これらに合わせて、学校行事や学校生活に関する自己評価に関するアンケートも実施した。

アンケートは学年末の特別編成授業期間に実施して、4年生は平成25年3月5日(月)に、5年生は平成26年3月5日(火)に実施した。アンケートには4年生は42名中37名(88.1%)が回答、5年生は41名中40名(回答率97.6%)が回答した。アンケート項目および分析結果は以下の通りである。なお、4年生に実施したアンケート結果の割合の合計(%)は四捨五入の関係で100%になっていない。

4-1 実施内容に関する質問

実施内容に関する質問の結果について、以下の9項目について述べる。9項目の内、(7)の50周年記念フォーラム以外の項目については「良い」「やや良い」と回答する学生が50%以上を占めた。

(2)の実務訓練報告会については、発表時間が1名5分と短かったため、発表件数を絞って発表内容を充実させてはとの意見が寄せられた。(4)のキャリアセミナー・自己分析については、担任から学生へ趣旨がうまく伝わらなかったのが原因で、何名かの学生は会の途中で退出した。(7)の50周年記念フォーラムについては、卒業後の進路が進学としている学生が中心となって参加したが、次の進路決定まで時間があることなどもあり、高評価とならなかった。



図7 1年生と5年生との交流会の様子
(平成25年11月7日, 創造工学実験の作品紹介)



図8 4年生と5年生との進路に関する座談会の様子
(平成26年1月14日, 就職ブース)



図9 一日体験入学の様子 (平成25年7月20日)

(8)の1年生と5年生との交流会については、5年生の一部は担当がなかったため参加しなかったが、参加しなかった学生からは1年生と交流したかったとの意見が寄せられた。(9)の4年生と5年生と進路に関する座談会については、早期に実施したほうが良いとの意見が寄せられた。

(2), (8), (9)の行事は実施する側の立場だった行事であるが、「良い」「やや良い」の意見が多かったことから、今後継続する価値はあると考えられる。

(1) 4年「企業・現場見学」の内容はどうでしたか

良い	14名(37.8%)
やや良い	14名(37.8%)
どちらとも言えない	5名(13.5%)
やや悪い	1名(2.7%)
悪い	1名(2.7%)
未参加	2名(5.4%)

(2) 4年「実務訓練報告会」の内容はどうでしたか

良い	13名(35.1%)
やや良い	13名(35.1%)
どちらとも言えない	10名(27.0%)
やや悪い	1名(2.7%)
悪い	0名(0%)

(3) 4年「進路講演会」の内容はどうでしたか

良い	10名(27.0%)
やや良い	11名(29.7%)
どちらとも言えない	10名(27.0%)
やや悪い	3名(8.1%)
悪い	3名(8.1%)

(4) 4年「キャリアセミナー・自己分析」の内容はどうでしたか

良い	7名(18.9%)
やや良い	12名(32.4%)
どちらとも言えない	11名(29.7%)
やや悪い	2名(5.4%)
悪い	0名(0%)
欠席した	4名(10.8%)
未回答	1名(2.7%)

(5) 4年「キャリアセミナー・面接対策」の内容はどうでしたか

良い	9名(24.3%)
やや良い	12名(32.4%)
どちらとも言えない	9名(24.3%)
やや悪い	1名(2.7%)
悪い	0名(0%)
欠席した	6名(16.2%)

(6) 4年「学生相談講演会」の内容はどうでしたか

良い	9名(24.3%)
やや良い	10名(27.0%)
どちらとも言えない	14名(37.8%)
やや悪い	1名(2.7%)
悪い	1名(2.7%)
未回答	2名(5.4%)

(7) 5年「創立50周年記念フォーラム」の内容はどうでしたか

良い	1名(2.5%)
やや良い	2名(5.0%)
どちらとも言えない	10名(25.0%)
やや悪い	2名(2.5%)
悪い	0名(0%)
欠席した	24名(60.0%)
未回答	1名(2.5%)

(8) 5年「1年生と5年生との交流会」の内容はどうでしたか

良い	5名(12.5%)
やや良い	16名(40.0%)
どちらとも言えない	10名(25.0%)
やや悪い	0名(0%)
悪い	0名(0%)
欠席した	9名(22.5%)
未回答	1名(2.5%)

(9) 5年「4年生と5年生と進路に関する座談会」の内容はどうでしたか

良い	10名(12.5%)
やや良い	16名(40.0%)
どちらとも言えない	10名(25.0%)
やや悪い	1名(0%)
悪い	0名(0%)
欠席した	3名(22.5%)

4-2 自己評価に関する質問

自己評価に関する質問の結果について、以下の13項目について述べる。

(1)~(9)への取り組みについては、(6)の規則正しい生活と(8)の家庭学習以外の項目については「出来た」「やや出来た」と回答する学生が50%以上を占めた。特に(1)の実務訓練、(2)の卒業研究、(4)の工嶺祭については「出来た」「やや出来た」と回答する学生が70%以上を占めた。これらの活動は学生実験とは異なり、未知の領域への挑戦する活動になるが、学生は積極的に取り組んでいる様子が伺えた。

(6)の規則正しい生活については、5年生になるとレポートや卒業研究などの課題に取り組むことが多くなるため、(2)の卒業研究、(9)の課題提出の結果から「やや出来なかった」「出来なかった」と回答する学生が増えたと考えられる。(8)の家庭学習については、授業の予習や復習など日頃の学習に取り組んでいない様子が伺え、本校が別途調査している学習実態・教育指導調査と同様の傾向となった⁸⁾。今後、規則正しい生活を送るよう生活指導を行うとともに、

低学年では日頃から学習するよう指導をすることによって、高学年においては自ら積極的に学習するような体制になり、卒業研究が活性化して、進路選択においてもより良い結果が期待できる。

(10)進路支援室および(11)進路支援システム cosmos3 の利用者については 70%以上の学生が利用していることがわかった。ある程度進路を決めている場合は情報収集をする必要がないことから、学生全員が利用するに至らなかったと考えられる。

(12)および(13)の結果より、80 %以上の学生は 5 年間の学生生活が充実しており、満足していることがわかった。卒業に至るまでには困難な道のりだったと考えられるが、学生自身が乗り越えてきたこともあり、このような結果につながったと考えられる。

(1) 4 年「実務訓練」について積極的に取り組むことが出来ましたか

出来た	28名(75.7%)
やや出来た	6名(16.2%)
どちらとも言えない	2名(5.4%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)
未参加(過年度実施)	1名(2.7%)

(2) 5 年「卒業研究」について積極的に取り組むことが出来ましたか

出来た	9名(22.5%)
やや出来た	19名(47.5%)
どちらとも言えない	8名(20.0%)
やや出来なかった	3名(7.5%)
出来なかった	1名(2.5%)

(3) 5 年「クラスマッチ」について積極的に取り組むことが出来ましたか

出来た	16名(40.0%)
やや出来た	10名(25.0%)
どちらとも言えない	9名(22.5%)
やや出来なかった	3名(7.5%)
出来なかった	2名(5.0%)

(4) 5 年「工嶺祭」の活動に積極的に取り組むことが出来ましたか

出来た	17名(42.5%)
やや出来た	18名(45.0%)
どちらとも言えない	4名(10.0%)
やや出来なかった	1名(2.5%)
出来なかった	0名(0%)

(5) 5 年生で進路決定に向けて積極的に取り組むことが出来ましたか

出来た	18名(45.0%)
-----	------------

やや出来た	10名(25.0%)
どちらとも言えない	11名(27.5%)
やや出来なかった	1名(2.5%)
出来なかった	0名(0%)

(6) 5 年生で規則正しい生活をする事が出来ましたか

出来た	8名(20.0%)
やや出来た	4名(10.0%)
どちらとも言えない	17名(42.5%)
やや出来なかった	8名(20.0%)
出来なかった	3名(7.5%)

(7) 5 年生で授業および実験にしっかり取り組むことが出来ましたか

出来た	12名(30.0%)
やや出来た	16名(40.0%)
どちらとも言えない	12名(30.0%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)

(8) 5 年生で日頃から家庭学習をしっかりすることが出来ましたか

出来た	4名(10.0%)
やや出来た	7名(17.5%)
どちらとも言えない	15名(37.5%)
やや出来なかった	6名(15.0%)
出来なかった	8名(20.0%)

(9) 5 年生で課題をしっかり提出することが出来ましたか

出来た	19名(47.5%)
やや出来た	15名(37.5%)
どちらとも言えない	5名(12.5%)
やや出来なかった	1名(2.5%)
出来なかった	0名(0%)

(10) 5 年生で進路支援室を利用しましたか

利用した	33名(82.5%)
利用していない	7名(17.5%)

(11) 5 年生で進路支援システム cosmos3 を利用しましたか

利用した	30名(75.0%)
利用していない	9名(22.5%)
未回答	1名(2.5%)

(12) 学習面および生活面を振り返り、5 年間を通じて充実して過ごすことが出来ましたか

充実した	19名(47.5%)
やや充実した	16名(40.0%)
どちらとも言えない	3名(7.5%)
やや充実していなかった	1名(2.5%)
充実していなかった	1名(2.5%)

(13) 5年間の学生生活に満足していますか

満足した	22名(55.0%)
やや満足した	14名(35.0%)
どちらとも言えない	3名(7.5%)
やや満足出来なかった	0名(0%)
満足出来なかった	1名(2.5%)

5. あとがき

本論文では、筆者がクラス担任を務めた電気電子工学科の平成24年度4年生および平成25年度5年生を対象とした学校行事および学科で独自に開催した行事の一部について紹介した後、学年末に実施した学校行事および学校生活に関するアンケート結果について述べた。

行事の実施内容に関する9項目のアンケート結果では、「創立50周年記念フォーラム」については参加者が少なく、参加者の進路決定までまだ時間があることなどから高評価とならなかった。自己評価に関する13項目のアンケート結果では、「規則正しい生活」と「家庭学習」については「やや出来なかった」「出来なかった」と回答する学生が20%以上を占めることがわかった。

日本技術者教育認定機構(JABEE)の基準1(2)に「(f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」と「(g) チームで仕事をするための能力」が含まれているが⁹⁾、これらはいきなり創造性を育むグループ学習を行えば身に付くものではない。技術者教育を行う本校においては、学校行事や正課、課外活動、ボランティア活動、寮生活などを活用して、学生自らが積極的に多くの人とコミュニケーションを取り、チームで物事を解決する経験を積めるような場面を多く用意することで、グループ学習をする際に大きな効果が期待される。特に、学んだことを仲間や他人に教えたり伝えたりする経験は重要である¹⁰⁾。現在、長野高専では学校行事の縮小が議論されつつあるが、学生の心身の発達を促し、学生生活を充実させ、コミュニケーション能力やチームワーク力を自ら身に付けるようにするためには、出来る限り学校行事は現状維持するべきである¹⁰⁾と考える。

ここ数年でキャリア教育に関する行事が増えてきており、進路指導が充実してきた。平成27年度から教育課程の大幅な変更がなされ、学修単位とする科目が増加した。新たに「エンジニアリングデザインI」「エンジニアリングキャリアI・II」が導入さ

れ、キャリア教育に関する行事などに参加して成果を上げた場合に単位化されることになった。学生がより活発に活動できるように、活動するにあたっての心構えなどを学ぶ研修を正課に取り入れるなども必要と考える。

最後に、自己評価に関する13項目のアンケート結果より、80%以上の学生は5年間の学生生活が充実しており、学生生活に満足していることがわかった。このような結果が得られたのは教職員全員が喜ぶべき結果であろう。今後も本校の教育理念「優れた技術者は、優れた人間でなければならない」を大切にして、世界に貢献できる技術者の輩出に努力していきたい。

参考文献

- 1) 渡辺誠一：キャリア教育を取り入れた3年生特別研修の実施，長野工業高等専門学校紀要，No.45-2-3，pp.1-8（2011.6）
- 2) 渡辺誠一：キャリア教育を取り入れた3年生ホームルーム活動の実施，長野工業高等専門学校紀要，No.46-2-4，pp.1-7（2012.6）
- 3) 渡辺誠一：長野高専電気電子工学科におけるインターンシップの必修選択化，電気学会教育フロンティア研究会資料，FIE-09-15，pp.71-74（2009.3.6）
- 4) 鈴木宏，古川万寿夫：学生をアドバイザーとした進路相談会，平成23年度高専教育研究活動発表概要集，O-75，pp.355-356（2011.8）
- 5) 渡辺誠一，古川万寿夫，秋山正弘，百瀬成空：PBLを取り入れた創造工学実験の実施，平成20年度電気学会基礎・材料・共通部門大会論文集（CD版），No.I-1，pp.91-96（2008.8）
- 6) 古川万寿夫，渡辺誠一，春日貴志，秋山正弘，百瀬成空，鈴木宏：創造工学実験の実践～学生が発案・設計・製作をした創造作品の実例（その2）～，平成26年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集，PO_A16，pp.1-2（2014.8）
- 7) 渡辺誠一：自ら積極的に工学技術を学ぶ学生の育成を目指して，工学教育，Vol.62，No.5，p.90（2014.10）
- 8) 教務委員会：平成25年度学習実態・教育指導調査報告書，長野工業高等専門学校，p.11（2014.3）
- 9) 日本技術者教育認定機構：2014年度認定・審査用資料集（エンジニアリング系学士課程用），日本技術者教育認定機構，pp.59-60（2014.6）
- 10) 渡辺誠一，横山靖樹，大澤幸造：学生実験「太陽光発電設備の発電特性」の実施，平成26年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集，AK12_1_1，pp.1-2（2014.8）